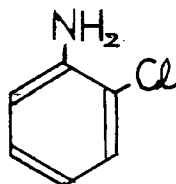


0-クロロアニリンの濃縮度試験成績報告書

1. 試験期間 昭和51年4月28日～昭和51年8月25日
2. 試料名 0-クロロアニリン(試料No K-141)
構造式



3. 試験方法及び条件

環保業第5号
薬発第615号 } 魚介類の体内における化学物質の濃縮度試験による
49基局第392号 }

3.1 試験装置及び機器

- (a) 水系環境調節装置 流水式
(b) ガスクロマトグラフ 検出器 FID

3.2 試験条件

3.2.1 TLM試験

(a) 試験魚

ヒメダカ平均体重 0.2 g, 塩化第二水銀検定合格魚※

※田端 健二 用水と廃水 14 1297～1303 (1972)

(b) 分散剤及び分散法

分散剤 硬化ヒマシ油 (HCO 100)

分散法 供試物質2gを硬化ヒマシ油6gを加温混合後水に
とかして1ℓとし、2000 ppmの原液を調製した。

(c) 試験温度

25 ± 2℃

(d) 結果

48時間TLM値 6.3 ppm

3.2.2 濃縮度試験

(a) 試験魚

コイ 平均体重 約24 g

平均体長 約11 cm

(b) 試験温度

25 ± 2℃

(c) 試験濃度

分析限界※を考慮して設定した。

設定値

	供試物質	硬化ヒマシ油
第1濃度区	0.1 ppm	0.3 ppm
第2濃度区	0.01 ppm	0.03 ppm

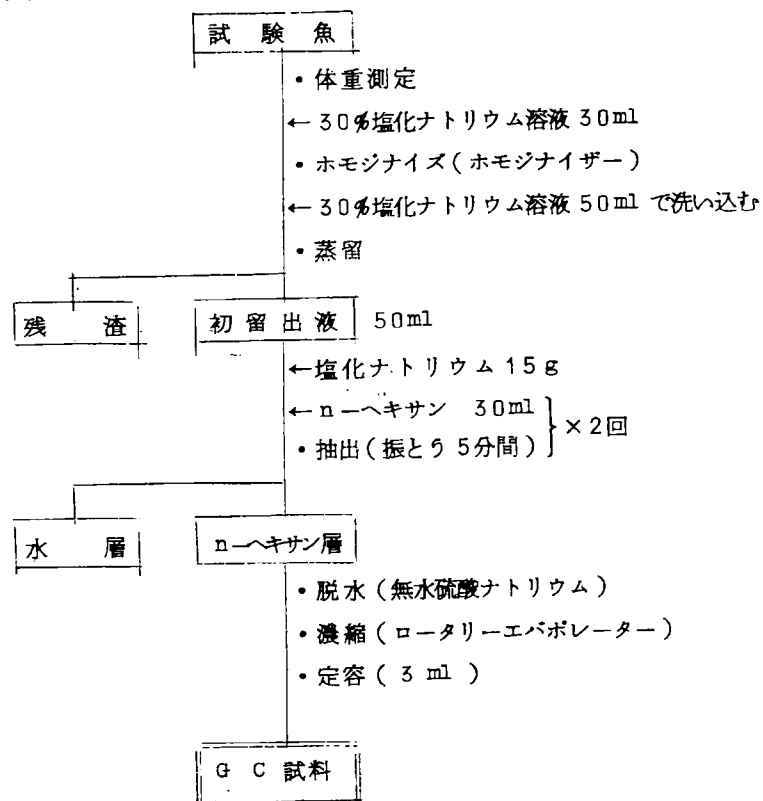
※ 分析限界については5.1で補足説明する。

実測値

表一 濃縮倍率を求めるための平均濃度 (単位 ppm)

	2 W	4 W	6 W	8 W
第1濃度区	0.0842	0.0848	0.0833	0.0820
第2濃度区	0.0097	0.0098	0.0098	0.0101

3.2.3 分析試料の前処理



3.2.4 分析条件

ガスクロマトグラフ (G C) 検出器 FID

キャリアガス N₂

充てん剤 Lubrol MOA 5% ガスクローム Q

80/100 メッシュ

ガラスカラム 2 mmφ × 1 m

カラム温度 105℃

4. 試験結果

表一 濃 縮 倍 率

	2W	4W	6W	8W	付 図	付 表
第1濃度区	6.3 6.1	7.4 9.0	6.4 6.4	5.4 5.5	1, 4, 5	3, 4, 6
第2濃度区	30 32	25 20	20 14未満	14 21	2, 4, 6	3, 5, 6

以下次頁に続く

5. そ の 他

5.1 分析限界について

機器の検出限界（図-3 検量線参照）は約 1 ppm であり、魚体重 30 g，前処理後の最終液量を 3 ml，回収率は 70% と考えれば

$$\frac{1}{\frac{70}{100} \times \frac{30}{3}} \div 0.14 \text{ ppm となり}$$

魚体中濃度で約 0.14 ppm が分析限界である。

水槽濃度は設定値にほぼ近いと考え、濃縮性の低い場合は

$$\frac{0.14}{0.01} = 14 \quad \text{すなわち 14 倍未満の表示をするとし}$$

て、第 2 濃度区の水槽濃度を 0.01 ppm に設定した。

第 1 濃度区はその 10 倍の 0.1 ppm に設定した。

以 上